

令和7年度 第2回 深伊沢小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和7年8月25日(火) 14:30~15:50

2 場 所 図書室

3 あいさつ(学校長、委員長)

(委員長より)・今日は教職員の方も多数参加していただきため、充実した話し合いにして
いきたい。

(学校長より)・登下校の見守りや学習ボランティア、環境整備など、あらゆるサポートに感謝している。子どもたちを温かく、大らかに受け止めていただいている。

4 協議内容

(1)学校関係者評価について

・学力向上×ICT活用、長欠・不登校対策、地域との協働、非認知能力の育成、人権教育及び特別支援教育、学校経営の6点について、本年度の活動(具体的な手立て)と指標を説明する。

(2)FCE(深伊沢コミュニティイベント)について

・今年度は、11月29日(土)の午前中に開催する。
・第一部は、深伊沢小学校創立150周年の聞き取り学習の発表会(5年生)と小中学校音楽会に向けてのプレ発表会(4, 5年生)の予定である。
・第二部は、外国人の方を約10名招いて、低・中・高学年に分かれて、多文化共生教育の学習を行う予定である。
・第三部は、老人会の方をゲストティーチャーに招いて、昔遊びの体験を縦割り班で行う予定である。
・非常時の炊き出しの訓練を兼ねて、豚汁の炊き出しを行う。昼食は豚汁を食べ、13:25に下校することを確認した。

(3)本年度の活動について

○学力向上・ICT活用について

・協働学習のスタイルに否定的回答をしている子が少しいる。人とのかかわりに苦手意識がある子については、個別での学習も尊重しながら、無理なく進めていきたい。

○非認知能力の育成について

・ポジティブメッセージカードについては、努力、親切、友達、感謝の観点でよさを記入し、伝えるようにしている。

○児童の様子について

・長期欠席児童が少ない学校である。地域の皆様に温かく接していただいているおかげで

ある。学校としても、早めの対応を心がけている。児童の状況交流会を毎月行ったり、支援会議やケース会議を適宜行ったり、子どもの生活を語る会でも、子ども達の人間関係を見守ったりしている。

(4) 分散会

A 学力向上・ICT 活用について

- ・ICT を効果的に活用し、苦手な子の学習支援を行いたい。友達との関わりを大事にしながら学習を深めていきたい。夏休みの社会科の自由研究では、友達との協働で豊穴式住居を作った子がいた。テストで点数をとることだけでなく、何のために学習するのかを考えさせ、生きる力につながっているという実感を持たせたい。

B 非認知能力の育成について

- ・これまで学校が大切にしてきたことを4つに絞って、丁寧にみている。(やりぬく力、自制心、自己肯定感、社会性)家庭や地域の中でも、そういった目線で見られるとよい。人とのかかわりが少なくなった世の中で大切なことである。盛りだくさんな印象があるので、負担にならないように、教師自身が躍起にならず、余裕をもって取り組んでいただきたい。

C 仲間づくり(人権教育、特別支援教育の観点も踏まえて)について

- ・登下校で歩けなくなった子に対して、上級生があたたかく接しているのを見て、頭が下がる思いである。小規模校であるため、クラス替えがなく、人間関係が固定化されてしまいがちであるが、みんなのことを知っているという小規模校のよさを生かし、仲を深めていきたい。クラス替えはできないが、縦割り班は毎年変わっているので、そこでの出会いを大切にしている。

5 その他

- ・2学期の主な行事予定について
- ・次回の学校運営協議会では、縦割り掃除の見学と授業参観をした後、FCEの最終打ち合わせを行う。14時からは、伊船東の老人会の代表2名にも参加していただき、FCEの昔遊びについての打ち合わせを行う予定である。

6 教育委員会より

- ・3名の教職員から、具体的に分かりやすい言葉で、生の声を聴かせていただいた。動画や写真も入れていただき、自分で見てわかりやすいようにしていただいた。2学期以降も、登下校や学校生活で地域の皆様には大変お世話になります。非認知能力は、家庭や地域でも育つ。3つの分科会もよかったです。普段、先生方と話す機会はないので、関係性が出てくる。この方はこの前の会議の人だという顔の見える関係となる。A,B,C のそれぞれのグループで話し合ったことをこれからも引き続き話し合っていただけるとよい。